

大学番号：194

注3

[平成25年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

名古屋学院大学 法学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人名古屋学院大学
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 キカクチイキレンケイツチョウ デグチ ヒロヤ
企画地域連携室長 出口 博也

電話番号 052-678-4085

（夜間） 052-678-4080

F A X 052-682-6813

e-mail u p r @ n g u . a c . j p

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に
（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部

（□□学部（平成◇◇年度より変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

法学部

<法学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人名古屋学院大学

(2) 大 学 名

名古屋学院大学

(3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎

〒456-8612

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋キャンパス日比野学舎

〒456-0062

愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(イナガキ タカシ) 稲垣 隆 司 (平成24年8月)		
学 長	(キブネ ヒサオ) 木 船 久 雄 (平成23年4月)		
学 部 長	(エンドウ ケンジ) 遠 藤 賢 治 (平成25年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は、平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称(学位)	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
法学部 法学科 学士(法学)	4 年	150 人	年次 - 人	600 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 提出年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 150 (-) [-]	人 (-) [-]	人 150 (-) [-]	人 (-) [-]	人 150 () []	人 (-) [-]	人 () []	人 () []	1.09 倍	- 倍	
志願者数	600 (-) [-]	- (-) [-]	872 (-) [-]	- (-) [-]	836 (1) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []			
受験者数	583 (-) [-]	- (-) [-]	854 (-) [-]	- (-) [-]	820 (1) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []			
合格者数	444 (-) [-]	- (-) [-]	628 (-) [-]	- (-) [-]	633 (1) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []			
B 入学者数	172 (-) [-]	- (-) [-]	152 (-) [-]	- (-) [-]	172 (1) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.14		1.01		1.14						

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[-] (-) 172	[-] (-) -	[-] (-) 152	[-] (-) -	[-] (-) 171	[-] (-) -	[] () -	[] () -	平成25年度入学者のうち、平成25年度に5名が退学、1名が他学部に移籍した。(26) 平成26年度に4名が退学、1名が他学部に移籍した。また、平成27年度に編入生が1名入学したため平成27年度3年次在学者数が合計162名となった。(27)
2 年次			[-] (-) 166	[-] (-) -	[-] (-) 150	[-] (-) -	[] () -	[] () -	
3 年次					[-] (-) 162	[-] (-) -	[] () -	[] () -	
4 年次							[] () -	[] () -	
計							[] () -	[] () -	
	172		318		483				

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について **内数** で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	172 人	9 人	平成25年度	5 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人)、家庭の事情(2人)、学生個人の心身に関する事情(1人)	5.2% %
			平成26年度	4 人	0 人	就職(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)、就学意欲の低下(1人)	
			平成27年度	0 人	0 人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	152 人	2 人	平成26年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人) 他の教育機関への入学・転学(1人)	1.3% %
			平成27年度	0 人	0 人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	171 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0.0% %
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
合 計	495 人	11 人					2.2% %

(注)・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<法学部 法学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	キ リ ス ト 教	キリスト教概説	1前	2		1 4					兼1 葛井教授が当該科目の担当教員として、病氣療養から復帰(27) 病氣療養のため、担当者を変更(専任から兼任)(25)
		キリスト教学	1後	2		1 4					兼1 葛井教授が当該科目の担当教員として、病氣療養から復帰(27) 健康上の理由により葛井義憲教授の担当を変更(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		キリスト教と文学	2・3・4前		2						兼1
		キリスト教と文化	2・3・4後		2						兼2 兼4 教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)
		キリスト教倫理	2・3・4後 2・3・4前		2						兼1 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		キリスト教史	1・2・3・4後		2						兼1
	自 己 理 解 と 自 己 開 発	基礎セミナー	1前	2		10 9 40	1	5 3 2	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) 持田辰郎教授の追加平成25年7月AC教員審査済(26) 皆川誠助教の講師昇任平成26年1月AC教員審査済(26) 病氣療養のため、担当者1名減(25)
		発展セミナー	1後		2			3 4	0 2		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任平成27年1月AC教員審査済(27)
		キャリアデザイン1a	1前		2						兼1 兼2 兼4 江利川講師(兼任)が担当を外れたが、他の教員が担当するため教育上支障はない(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		キャリアデザイン1b	1後		2						兼1 兼2 兼4 江利川講師(兼任)が担当を外れたが、他の教員が担当するため教育上支障はない(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		キャリアデザイン2a	2前		2						兼3 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(26)
		キャリアデザイン2b	2後		2						兼3 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(26)
		キャリアデザイン3a	3前		2						兼1
		キャリアデザイン3b	3後		2						兼1
		能力開発1	1・2・3・4前後		2						兼1
		能力開発2	1・2・3・4前後		2						兼1
		能力開発3	1・2・3・4前後		2						兼1
		ボランティア学	1・2・3・4前		2	4					兼2 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 病氣療養のため、担当者1名減水野兼担教授のみで開講(25) オムニバス
		ボランティア演習	1・2・3・4後		2						兼3 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(26) ※実習
		インターンシップ1	1・2・3・4前後		2						兼1 集中
		インターンシップ2	1・2・3・4前後		2						兼1 集中
	社 会 的 教 養	哲学	1・2・3・4前		2	1					兼4 持田辰郎兼担教授の法学部移籍平成25年7月AC教員審査済(26)
		哲学史	1・2・3・4後		2	1					兼4 持田辰郎兼担教授の法学部移籍平成25年7月AC教員審査済(26)
		日本文学	1・2・3・4前		2						兼1
		日本文学史	1・2・3・4後		2						兼1
		心理学概論	1・2・3・4前後		2						兼3 兼2 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		現代日本文化論	1・2・3・4前後		2						兼1 未開講(27)
		比較文化入門	1・2・3・4前後		2						兼1 未開講(27)
		多文化共生論	1・2・3・4前		2						兼1
		文明論	1・2・3・4後		2						兼1
		宗教と人間	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2						兼1 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		聖書と人間	1・2・3・4前		2						兼2 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(26)
		キリスト教人間学	2・3・4前		2	4					1 健康上の理由により専任教員の担当を変更(26)
		死生学	1・2・3・4前		2						兼1 兼5 兼4 教学上の理由により、5名のオムニバス方式から変更(27) 教育効果を考慮し、担当者(兼任及び兼任)の追加(25)
	社 会 理 解	社会学入門	1・2・3・4前		2			1			兼3 兼4 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		宗教社会学	1・2・3・4前後		2			1			兼1

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
N G U 教 養 社 会 ス タ ン ダ ー ド 科 目	社会 理解	比較宗教学	1・2・3・4後		2							兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前後		2							兼2 兼3 兼2	飯島准教授(兼担)が担当を外れたが、他の教員が担当するため教育上支障はない(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		現代社会と法律	1・2・3・4前後		2							兼2 兼3 兼2	飯島准教授(兼担)が担当を外れたが、他の教員が担当するため教育上支障はない(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		暮らしと法律	1・2・3・4前後		2							兼1	
		現代社会と経済	1・2・3・4前後		2							兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		経済の仕組	1・2・3・4前 1・2・3・4前後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		企業と社会	1・2・3・4前後		2							兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		国際関係論入門	1・2・3・4後		2							兼1	
		国際政治学	1・2・3・4前		2							兼1	
		国際社会入門	1・2・3・4後		2							兼1	
		国際社会問題	1・2・3・4前後		2							兼2 兼3 兼2	人見講師(兼担)が担当を外れたが、他の教員が担当するため教育上には支障はない(26) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		現代社会と教育	1・2・3・4後		2							兼1	
		平和学入門	1・2・3・4前後		2							兼1	
		人権と社会	1・2・3・4前 1・2・3・4前後		2							兼1 兼2	教学上の理由により、開講時期を変更(27) 大宮准教授(兼担)、人見講師(兼担)が担当を外れたが他の教員が担当するため教育上支障はない(26)
	自然 理解	数学	1・2・3・4前		2							兼1	
		数理科学	1・2・3・4後		2							兼1	
		基礎統計学	1・2・3・4前		2							兼1	
		実用統計学	1・2・3・4後		2							兼1	
		化学	1・2・3・4前 1・2・3・4前後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		化学と社会	1・2・3・4後 1・2・3・4前後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更。今年度未開講のため次年度開講予定(27)
		生物学	1・2・3・4前後		2							兼1	
		地球科学概論	1・2・3・4前		2							兼1	
		地球物理学概論	1・2・3・4後		2							兼1	
		人類学	1・2・3・4前		2							兼1	
		物理学	1・2・3・4後		2							兼1	
		科学史	1・2・3・4後		2							兼1	
		生命倫理	1・2・3・4後		2							兼1 兼2 兼1	オムニバスを単独講義に変更(27) 25年度に当該科目はオムニバスへ変更したが、25年度の報告においてその旨記載漏れあり(27) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		歴史文 化理解	日本史	1・2・3・4前		2							兼1
	日本思想史		1・2・3・4前後		2							兼1	
	日本文化史		1・2・3・4前 1・2・3・4後		2							兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
	中国文化入門		1・2・3・4前		2							兼1	
	英米文化入門		1・2・3・4後		2							兼1	
	文化人類学		1・2・3・4後		2				1			兼1	
	世界の近現代史		1・2・3・4前後		2							兼1	
	世界史		1・2・3・4前後		2							兼1	
	考古学入門		1・2・3・4後		2							兼1	
	陶芸論		1・2・3・4前		2							兼1	
	陶芸演習	1・2・3・4後		2							兼1		
	環境 理解	環境科学	1・2・3・4前後		2							兼1	未開講(27)
		生態学	1・2・3・4前後		2							兼1	
		地域生態論	1・2・3・4前		2							兼1	
		地球環境学	1・2・3・4前		2							兼1	
	身体 理解	健康の科学	1・2・3・4前後		2							兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前後		2							兼1	
		スポーツ初級A	1・2・3・4前後		1							兼4 兼3 兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1・2・3・4前後		1							兼4 兼3 兼1	教学上の理由により、開講時期を変更。教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	身体 理解	スポーツ中級A		1							兼5 兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) 教育効果を考慮し、担当者を追加(26)
		スポーツ中級B		1							兼5 兼3 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更。教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ上級A		1							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		スポーツ上級B		1							兼1 兼2 兼3
	地域 理解	地域商業まちづくり学		2							兼3 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		歴史観光まちづくり学		2							兼1 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		減災福祉まちづくり学		2							兼1 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		地域商業まちづくり演習		2							兼1 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		歴史観光まちづくり演習		2							兼1 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		減災福祉まちづくり演習		2							兼1 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
		上級まちづくり演習		2							兼3 「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
	社 会 的 教 養 言 語 と コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	日本語表現		2							兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		日本語表現上級		2							兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		基礎英語1		1							兼3 兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		基礎英語2		1							兼3 兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		英会話1		1							兼3 兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		英会話2		1							兼3 兼3 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		実用英語演習1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		実用英語演習2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		情報英語演習1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		情報英語演習2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		TOEIC英語演習1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		TOEIC英語演習2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		ドイツ語1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		ドイツ語2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		フランス語1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		フランス語2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		スペイン語1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		スペイン語2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		中国語1		1							兼1 兼3 兼2 履修人数に応じた担当者数の変更で教育上支障はない(26)
		中国語2		1							兼1 兼3 兼2 履修人数に応じた担当者数の変更で教育上支障はない(26)
		韓国語1		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		韓国語2		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		手話入門		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		手話基礎		1							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
	理 情 解 報	情報処理基礎		2							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
		情報概論		2							兼1 兼2 教育効果を考慮し、担当者(兼任)の追加(25)
	教 職	教職論		2							兼1 兼2 兼3 教育効果を考慮し、開講時期を変更(27) 兼任教員が退職したが他の教員が担当しており、教育上支障はない(26)
		教育原理		2							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		教育心理学概論1		2							兼1 兼2 兼3
		教育心理学概論2		2							兼1 兼2 兼3
		教育制度論		2							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		特別活動論		2							兼1 兼2 兼3
		教育の方法と技術		2							兼1 兼2 兼3
		道徳教育論		2		1					兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		生徒・進路指導論		2							兼1 兼2 兼3 教学上の理由により、開講時期を変更(27)
		教育相談		2							兼1 兼2 兼3

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	導 入 科 目	法学入門	1前	2		2					
		市民生活と法	1前	2		6		4 2 +	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任平成27年1月AC教員審査済(27) 皆川誠助教を講師に昇任平成26年1月AC教員審査済(26) オムニバス ※実習
		導入公法	1前	2		1		1			オムニバス
		導入民事法	1後	2		2					オムニバス
		導入刑事法	1後	2		1		1	0 +	兼1	萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) オムニバス
	公 法 科 目	憲法1a(人権)	1後	2		1					
		憲法1b(人権)	2前	2		1					
		憲法2a(総論・統治機構)	2後	2		1					
		憲法2b(総論・統治機構)	3前	2		1					
		行政法総論1	3前	2				1			
		行政法総論2	3後	2				1			
		行政救済法1	3・4後	2						兼1	
		行政救済法2	4前	2						兼1	
		租税法	4前	2						兼1	
		地方自治法	3・4後	2						兼1	
	民 事 法 科 目	民法総則	2前	4		2					
		物権法	2前	2		1					
		債権法総論	2後	4		1					
		債権法各論1	3前	2		1		1	0 +		大原寛史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27)
		債権法各論2	3後	2		1					
		担保法	2後	2		1 2					教学上の理由により、担当者を中村昌美教授の1クラス分とするが教育上支障はない(27)
		不動産登記法	3・4前	2		1					
		親族法	2・3・4前	2						兼1	集中
		相続法	2・3・4後	2						兼1	集中
		民事訴訟法1	3前	2		1					
		民事訴訟法2	3後	2		1					
		民事執行・保全法	3・4前	2		1					
		倒産法	3・4後	2						兼1	
	商 事 法 科 目	商法総論(商法総則・商行為総則)	2後	2		1					
		商取引法(商行為各論)	3前	2		1					
		会社法1	3前	2		1					
		会社法2	3後	2		1					
		会社法3	4前	2		1					
		手形法・小切手法	3・4後	2		1					
		保険法	3・4後	2						兼1	
	刑 事 法 科 目	刑法総論	2前	4		1					
		刑法各論1	2後	2		1		1	0 +		萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27)
		刑法各論2	3前	2		1		1	0 +		萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27)
		刑事訴訟法1	3・4前	2						兼1	
		刑事訴訟法2	3・4後	2						兼1	
		刑事政策	3・4後	2						兼1	
	現 代 ・ 社 会 法 科 目	労働法	3・4前	2						兼1	
		経済法	3・4後	2						兼1	
		知的財産法	3・4前	2		1					
		国際知的財産法	3・4後	2		1					
		生命倫理法	3・4後	2		1					
		情報法	3・4前	2						兼1	
		環境法	3・4後	2						兼1	
		消費者法	3・4後	2						兼1	
	国 際 関 係 法 科 目	国際法1	2・3・4前	2				1	+		皆川誠助教を昇任。平成26年1月AC教員審査済(26)
		国際法2	2・3・4後	2				1	0 +		皆川誠助教を昇任。平成26年1月AC教員審査済(26)
		国際機構法	3・4前	2				1	0 +		皆川誠助教を昇任。平成26年1月AC教員審査済であるが、26年度に記載漏れあり(27)
		国際私法1	3・4前	2		1					
		国際私法2	3・4後	2		1					
		国際取引法	3・4前	2		1					
		国際企業法務	3・4後	2		1					
	基 礎 法 科 目	法史学	2・3・4前	2						兼1	
		法社会学	2・3・4前	2						兼1	
		法哲学	3・4前	2						兼1	集中
		外国法	3・4前	2						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	政治学	2・3・4前		2							兼1
	比較政治学	2・3・4後		2			1				
	国際政治	3・4前		2			1				
	行政学	3・4前		2							兼1
	現代政治外交論	3・4後		2			1				
	経済学	2・3・4前		2							兼1
	経営学	2・3・4後		2							兼1
	金融論	3・4後		2							兼1
	財政学	3・4前		2							兼1
	会計学	3・4後		2							兼1
	社会保障論	3・4後		2							兼1
	国際理解1	1・2・3・4前後		2		1	1				
	国際理解2	1・2・3・4前後		2		1	1				
	国際理解3	1・2・3・4前後		2		1	1				
	国際理解4	1・2・3・4前後		2		1	1				
	導入演習	1後	2			9	1	4 2 +	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) 皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済(26)
	専門基礎演習	2前	2			9	1	4 2 +	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) 皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済(26)
	専門演習	2後	2			9	1	4 2 +	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) 皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済(26)
	専門発展演習1	3通	4			9	1	4 +	0 2		皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済。大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27)
	専門発展演習2	4通	4			9	1	3 +	0 2		皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済。萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27)
	リーガル・フィールドワーク	2後・3前		1		1	1	3 +	0 2 3		大原寛史助教、萩野貴史助教の講師昇任。平成27年1月AC教員審査済(27) 皆川誠助教を講師に昇任。平成26年1月AC教員審査済(26) 集中 ※演習

- (注)・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
25	178		203	25	185 178		210 203	「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴う科目の追加(26)
				[0]	[7] [- 0]	[]	[7] [- 0]	

- (注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。))とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	現代日本文化論	2	1・2・3・4	一般	選択	小松教授(兼任)が退職し、適任者がいないため未開講。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。
2	比較文化入門	2	1・2・3・4	一般	選択	小松教授(兼任)が退職し、適任者がいないため未開講。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。
3	化学と社会	2	1・2・3・4	一般	選択	梅本講師(兼任)の後任者を予定していたが、本務の都合で就任できなかったため。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。
4	環境科学	2	1・2・3・4	一般	選択	梅本講師(兼任)の後任者を予定していたが、本務の都合で就任できなかったため。代替措置なし。次年度開講予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「現代日本文化論」「比較文化入門」については、適任者がいないため未開講とした。「化学と社会」「環境科学」については、兼任講師の本務の都合で未開講とした。上記科目の配当年次は1・2・3・4年次であり、次年度以後も履修が可能である。現在、次年度開講に向けて担当者を選考中であるので、大きな問題はない。学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}}$	=	0.01
---	---	------

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする空地を含んでいたため訂正した。また、その他に法人所有地を含んでいたため控除した。(27)			
	校 舎 敷 地	225,418.99 m ² 144,021 m²	0m ²	0m ²	225,418.99 m ² 144,021 m²				
	運動場用地	83,493.78 m ² 81,632 m²	0m ²	0m ²	83,493.78 m ² 81,632 m²				
	小 計	308,912.77 m ² 225,653 m²	0m ²	0m ²	308,912.77 m ² 225,653 m²				
	そ の 他	64,445.76 m ² 181,773.53 m²	0m ²	0m ²	64,445.76 m ² 181,773.53 m²				
	合 計	373,358.53 m ² 407,426.53 m²	0m ²	0m ²	373,358.53 m ² 407,426.53 m²				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	開設時の面積は転記ミスがあり訂正した。また平成27年1月、白鳥学舎に新校舎を増築予定。(26) 平成27年1月竣工の新校舎の面積を、建築面積から登記上の面積に修正した。(27)				
	74,094.01m ² 74,102.73m ² 69,744.65m ² (68,979.22m ²) (69,744.65m ²)	0m ² (0m ²)	0m ² (0m ²)	74,094.01m ² 74,102.73m ² 69,744.65m ² (68,979.22m ²) (69,744.65m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	99室	74室	19室	6室 (補助職員0人)	8室 (補助職員0人)				
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		法学部 法学科		19 室					
(5)	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本		
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル					
		冊	種	〔うち外国書〕					
		点	点	点					
図 書 ・ 設 備	法学部	8,100[590] (3,699[431])	47[17] (47[17])	0 [0] 0 [0]	17 (17)	126 (126)	0 (0)		
	計	8,100[590] (3,669[431])	47[17] (47[17])	0 [0] 0 [0]	17 (17)	126 (126)	0 (0)		
	(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
5,907.13 m ²		778		550,000					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	6,711.52 m ²		野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他						
(8)	経費の見積り 及び 維持方法の概要	区 分	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請学部全体図書費にはデータベース等の整備費(運用コスト)を含む。共同研究費については大学全体の中で審議・決定する為に記載額は大学全体。	
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	24,055千円	3,000千円		3,000千円
		共 同 研 究 費 等	2,320千円	2,320千円	設備購入費	23,887千円	千円		千円
		学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		第6年次
		1,240千円	960千円	960千円	960千円	千円	千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	名古屋学院大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
経済学部	年	人	年次 人	人		倍			
経済学科	4	300	10	1,160	学士 (経済学)	1.06	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田 区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編 入学定員(10)廃止、入 学定員を300から250に 変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	平成12年度	同 上	平成27年度より学生募 集停止
現代社会学部									
現代社会学科	4	150	-	150	学士 (現代社会)	0.80	平成27年度	同 上	
商学部						1.09			
商学科	4	200	-	805	学士 (商学)	1.12	平成4年度	同 上	平成27年度より3年次編 入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士 (商学)	1.03	平成15年度	同 上	
法学部						1.09			
法学科	4	150	-	450	学士 (法学)	1.09	平成25年度	同 上	
外国語学部						1.16			
英米語学科	4	140	-	560	学士 (文学)	1.16	平成元年度	同 上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	200	学士 (文学)	-	平成元年度	同 上	平成27年度より学生募 集停止
国際文化協力量科	4	-	-	200	学士 (文学)	-	平成17年度	同 上	平成27年度より学生募 集停止
国際文化学部						0.90			
国際文化学科	4	100	-	100	学士 (文学)	0.93	平成27年度	同 上	
国際協力量科	4	50	-	50	学士 (文学)	0.86	平成27年度	同 上	
スポーツ健康学部									
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポー ツ健康)	1.25	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野 町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	50	学士(こども スポーツ教 育)	0.24	平成27年度	同 上	
リハビリテーション学部									
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学 療法学)	1.11	平成22年度	同 上	

大 学 の 名 称	名古屋学院大学大学院								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
経済経営研究科	年	人	年次 人	人		倍			
経済学専攻 修士課程	2	7	－	14	修士 (経済学)	1.49	平成9年度	愛知県名古屋市熱田 区大宝三丁目1番17 号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	－	40	修士 (経営学)	1.15	平成9年度	同 上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	－	15	博士 (経営学)	0.46	平成11年度	同 上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	－	14	修士 (英語学)	0.42	平成9年度	同 上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	－	10	修士 (国際文化 協力)	0.40	平成21年度	同 上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	－	40	修士 (英語学)	0.77	平成13年度	同 上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	－	9	博士 (英語学)	0.77	平成20年度	同 上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(A C対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・A C対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<法学部 法学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	遠藤 賢治 (69)	平成25年4月	基礎セミナー 法学入門 民事訴訟法1 民事訴訟法2 民事執行・保全法 国際理解1 国際理解2 国際理解3 国際理解4 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	教授	葛井 義憲 (65)	平成25年4月	キリスト教概説 キリスト教学 基礎セミナー ボランティア学※ キリスト教人間学 道德教育論	専	教授	葛井 義憲 (65)	平成25年4月	キリスト教概説 キリスト教概説 キリスト教学 キリスト教学 基礎セミナー ボランティア学 キリスト教人間学 道德教育論	病氣療養中のため、当該年度は担当者を変更(25) 左記2科目の担当復帰(27) 健康上の理由により、今年度担当科目を変更当初予定していた科目は他の教員が担当するため、教育上支障はない(26)
専	教授	山本 悦夫 (60)	平成25年4月	基礎セミナー 法学入門 市民生活と法※ 導入公法※ 憲法1a(人権) 憲法1b(人権) 憲法2a(総論・統治機構) 憲法2b(総論・統治機構) 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	教授	高森 哉子 (57)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 導入民事法※ 民法総則 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク						
専	教授	三浦 哲男 (65)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 導入民事法※ 商取引法(商行為各論) 国際取引法 国際企業法務 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	教授	山内 義廣 (67)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 導入刑事法※ 刑法総論 刑法各論1 刑法各論2 生命倫理法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	中村 昌美 (57)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 民法総則 物権法 担保法 不動産登記法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	教授	木棚 照一 (71)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 知的財産法 国際知的財産法 国際私法1 国際私法2 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	教授	加藤 雅信 (66)	平成25年4月	基礎セミナー 債権法総論 債権法各論1 債権法各論2 担保法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2	専	教授	加藤 雅信 (66)	平成25年4月	基礎セミナー 債権法総論 債権法各論1 債権法各論2 担保法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2	教学上の理由により、担保法の担当を外れ、中村昌美教授の1クラスのみに変更(27)
専	教授	山下 眞弘 (65)	平成25年4月	基礎セミナー 商法総論(商法総則・ 商行為総則) 会社法1 会社法2 会社法3 手形法・小切手法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	准教授	鈴木 隆 (38)	平成25年4月	基礎セミナー 比較政治学 国際政治 現代政治外交論 国際理解1 国際理解2 国際理解3 国際理解4 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク						
専	講師	宮坂 清 (42)	平成26年4月	基礎セミナー 発展セミナー 社会学入門 宗教社会学 文化人類学						
兼任	講師	宮坂 清 (41)	平成25年4月	社会学入門 宗教社会学 文化人類学						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	國井 義郎 (41)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 導入公法※ 行政法総論1 行政法総論2 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2						
専	助教	皆川 誠 (35)	平成25年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 国際法1 国際法2 国際機構法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク	専	講師	皆川 誠 (36)	平成26年4月	基礎セミナー 市民生活と法※ 国際法1 国際法2 国際機構法 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク	講師に昇任。 平成26年1月AC教員審査済(26)
専	助教	萩野 貴史 (33)	平成25年4月	基礎セミナー 発展セミナー 市民生活と法※ 導入刑事法※ 刑法各論1 刑法各論2 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク	専	講師	萩野 貴史 (35)	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 市民生活と法※ 導入刑事法※ 刑法各論1 刑法各論2 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 専門発展演習2 リーガル・フィールドワーク	講師に昇任。 平成27年1月AC教員審査済(27)
専	助教	大原 寛史 (28)	平成25年4月	基礎セミナー 発展セミナー 市民生活と法※ 債権法各論1 導入演習 専門基礎演習 専門演習 リーガル・フィールドワーク	専	講師	大原 寛史 (30)	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 市民生活と法※ 債権法各論1 導入演習 専門基礎演習 専門演習 専門発展演習1 リーガル・フィールドワーク	講師に昇任。 平成27年1月AC教員審査済(27)
兼任	教授	十名 直喜 (64)	平成25年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b	兼任	講師	江利川 良 枝 (50)	平成25年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン1a キャリアデザイン2b キャリアデザイン1b	教育効果を考慮して、担当教員を変更 (25) キャリアデザイン1a・1bの担当を外れ たが他の教員が担当するため教育上 支障はない(26)
				キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b インターンシップ1 インターンシップ2	兼任	講師	伊藤 由美 子 (53)	平成25年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b	教育効果を考慮して、担当教員を変更 (25) 教学上の理由により、当該科目は丹山 講師(兼任)に担当変更(27)
					兼任	教授	十名 直喜 (64)	平成25年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	キャリアデザイン2a・2bの担当を外れ たが他の教員が担当するため教育上 支障はない(26) 教学上の理由により、キャリアデザイ ン3a・bの担当科目は外れたが、当該 科目は安藤講師(兼任)が担当するた め教育上支障はない(27)
					兼任	教授	松永 公廣 (66)	平成26年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	単位認定者であるキャリアセンター長 交代による担当者の変更(26)
兼任	教授	谷口 篤 (57)	平成25年4月	能力開発1 能力開発2 能力開発3 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	兼任	教授	谷口 篤 (57)	平成25年4月	能力開発1 能力開発2 能力開発3 心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	教育効果を考慮して、当該科目の担当 教員として追加(25)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	水野 晶夫 (49)	平成25年4月	ボランティア学※ ボランティア演習	兼任	教授	水野 晶夫 (49)	平成25年4月	ボランティア学 ボランティア演習 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	ボランティア演習の担当を外れたが、大宮准教授(兼任)、玉川講師(兼任)、山下講師(兼任)が担当するため教育上の支障はない。「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴い、担当を3科目追加(26)
兼任	教授	持田 辰郎 (61)	平成25年4月	哲学 哲学史	専	教授	持田 辰郎 (62)	平成26年4月	基礎セミナー 哲学 哲学史	担当教員の法学部移籍。 平成25年7月AC教員審査済(26)
兼任	教授	早川 厚一 (64)	平成25年4月	日本文学 日本文学史 日本語表現 日本語表現上級	兼任	教授	早川 厚一 (64)	平成25年4月	日本文学 日本文学史 日本語表現	
					兼任	講師	永井 圭司 (32)	平成26年4月	日本語表現上級	担当者の変更(26)
兼任	教授	今村 薫 (52)	平成25年4月	文明論 人類学 文化人類学						
兼任	教授	岡澤 憲一 郎 (67)	平成25年4月	社会学入門 宗教社会学						
兼任	教授	矢澤 雅 (62)	平成25年4月	現代社会と教育 教職論 教育制度論	兼任	教授	矢澤 雅 (62)	平成25年4月	現代社会と教育 教職論 教育制度論 教育原理	教育効果を考慮し、松本浩司准教授(兼任)から担当を変更(26)
兼任	教授	宝島 格 (46)	平成25年4月	数学 数理学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一 (66)	平成25年4月	実用統計学						
兼任	教授	木村 光伸 (63)	平成25年4月	科学史 地域生態論	兼任	教授	木村 光伸 (63)	平成25年4月	死生学 科学史 生態学 地域生態論	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加。死生学は寺尾兼任講師、生態学は吉田兼任講師より変更(25) 教学上の理由により、死生学は5名のオムニバスから村山講師(兼任)の単独担当に変更(27)
兼任	教授	曾我 良成 (57)	平成25年4月	日本史 日本文化史	兼任	講師	上野 史朗 (58)	平成26年4月	日本史	教育効果を考慮し、担当者を追加(26)
					兼任	教授	曾我 良成 (57)	平成25年4月	日本文化史	
兼任	教授	荻原 隆 (63)	平成25年4月	日本思想史						
兼任	教授	黄 名時 (58)	平成25年4月	中国文化入門 考古学入門						
兼任	教授	吉野 勇夫 (69)	平成25年4月	英米文化入門	兼任	教授	菅野 光公 (68)	平成26年4月	英米文化入門	前任者定年退職につき、担当者を変更(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	坪田 暢允 (68)	平成25年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B	兼任	講師	坪田 暢允 (70)	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B	定年退職し、兼任講師として科目を担当。教学上の理由により、スポーツ上級A、同Bについては伊藤幹講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	教授	増田 喜治 (62)	平成26年4月	情報英語演習1 情報英語演習2						
兼任	教授	程 鵬 (50)	平成25年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	西寺 雅也 (71)	平成27年4月	行政学						
兼任	教授	中村 義寿 (64)	平成26年4月	経営学						
兼任	教授	水田 健一 (64)	平成27年4月	財政学						
兼任	教授	小林 甲一 (56)	平成27年4月	社会保障論						
兼任	准教授	大宮 有博 (43)	平成25年4月	キリスト教と文化 キリスト教倫理 聖書と人間 人権と社会	兼任	准教授	大宮 有博 (43)	平成25年4月	キリスト教概説 キリスト教学 キリスト教と文化 キリスト教と文化 キリスト教倫理 宗教と人間 聖書と人間 死生学 比較宗教学 人権と社会 生命倫理 ボランティア演習 ボランティア学	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加。キリスト教概説、キリスト教学は葛井教授、宗教と人間、死生学、比較宗教学、生命倫理は寺尾兼任講師より変更(25) キリスト教と文化など5科目の担当を外れたが、兼任講師(伊藤、石田、黒柳、池住)が担当するため教育上の支障はない(26) 教育効果を考慮して、ボランティア学の担当教員として追加。教学上の理由により、死生学は5名のオムニバスから村山講師(兼任)の単独担当に、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更(27)
兼任	准教授	小松 照幸 (68)	平成25年4月	現代日本文化論 比較文化入門			後任未定			教授に昇任(26) 定年退職し、科目担当の適任者がいないため未開講。次年度開講に向け調整中(27)
兼任	准教授	増田 あゆみ (48)	平成25年4月	多文化共生論 国際関係論入門 国際政治学 国際社会入門	兼任	教授	増田 あゆみ (48)	平成25年4月	多文化共生論 国際関係論入門 国際政治学 国際社会入門	教授に昇任(26)
兼任	准教授	飯島 滋明 (43)	平成25年4月	日本国憲法 現代社会と法律 平和学入門	兼任	准教授	飯島 滋明 (43)	平成25年4月	日本国憲法 現代社会と法律 平和学入門	担当を外れた2科目については玉木満兼任講師が担当するため、教育上支障はない(26)
兼任	准教授	黒田 知宏 (37)	平成26年4月	経済学	兼任	准教授	黒田 知宏 (37)	平成26年4月	経済学 現代社会と経済	教学上の理由により、経済学は菅原准教授(兼任)に担当変更。教育効果を考慮して、現代社会と経済の担当教員として追加(27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	上田 幸則 (47)	平成27年4月	会計学						
兼任	講師	榎澤 幸広 (40)	平成25年4月	日本国憲法 現代社会と法律 暮らしと法律						
兼任	講師	村上 寿来 (42)	平成25年4月	現代社会と経済 経済の仕組 企業と社会						
兼任	講師	人見 泰弘 (32)	平成25年4月	国際社会問題 人権と社会	兼任	講師	人見 泰弘 (32)	平成25年4月	国際社会問題 人権と社会	国際社会問題は吉田達矢講師(兼任)、中原聖乃兼任講師に担当を変更し、人権と社会は池住義憲兼任講師が担当するため、教育上支障はない(26)
兼任	講師	吉田 達矢 (38)	平成25年4月	国際社会問題 世界の近現代史 世界史	兼任	講師	吉田 達矢 (38)	平成25年4月	死生学 国際社会問題 世界の近現代史 世界史	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(25) 教学上の理由により、死生学は5名のオムニバスから村山講師(兼任)の単独担当に変更(27)
兼任	講師	村井 宏栄 (36)	平成25年4月	日本語表現 日本語表現上級	兼任	講師	玉田 沙織 (32)	平成25年4月	日本語表現 日本語表現上級	村井講師の自己都合退職により、後任に玉田講師、川越講師を採用(25) 玉田講師の自己都合退職により、濱野講師(兼任)に担当変更(27)
					兼任	講師	川越 めぐみ (33)	平成25年4月	日本語表現 日本語表現上級	
兼任	講師	可知 れい子 (48)	平成25年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	竹野 富美子 (53)	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	前任者の任期満了退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	船井 純平 (38)	平成25年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	船井 純平 (38)	平成25年4月	基礎英語1 基礎英語2 情報英語演習1 情報英語演習2	増田喜治教授(兼任)に代わり、情報英語1・2を担当(26)
兼任	講師	Clinton H. Weyand (35)	平成25年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	Ryan Barnes (35)	平成27年4月	英会話1 英会話2	前任者の任期満了退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	Clayton A. Campbell (48)	平成25年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	中野 奈央 (41)	平成27年4月	英会話1 英会話2	前任者の任期満了退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	松本 浩司 (32)	平成25年4月	教育原理 特別活動論	兼任	講師	犬塚 文雄 (63)	平成26年4月	特別活動論	教育効果を考慮して、特別活動論の担当を犬塚文雄兼任講師に変更教育原理は矢澤雅教授(兼任)に変更(26)
兼任	講師	小林 礼実 (47)	平成27年4月	金融論	兼任	講師	松原 克正 (48)	平成27年4月	金融論	教学上の理由により、担当者を変更(27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	北垣 創 (44)	平成25年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	加藤 智宏 (51)	平成25年4月	心理学概論						
兼任	講師	寺尾 寿芳 (51)	平成25年4月	宗教と人間 死生学 比較宗教学 生命倫理	兼任	講師	寺尾 寿芳 (51)	平成25年4月	宗教と人間 死生学 比較宗教学 生命倫理	本務校の都合により、兼任教員の就任を辞退。当該科目は大宮兼担准教授が担当(25)
兼任	講師	梅本 和泰 (70)	平成25年4月	化学 化学と社会 環境科学	兼任	講師	梅本 和泰 (70)	平成25年4月	化学 化学と社会 環境科学	学内調整の結果、就任見合わせとなり、化学は長講師(兼任)に担当変更。化学と社会、環境科学については現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	吉田 耕治 (41)	平成25年4月	生物学 生態学	兼任	講師	齋藤 久美子 (34)	平成25年4月	生物学	教育効果を考慮して、生物学を齋藤兼担講師、生態学を木村兼担教授へ変更(25)
兼任	講師	石川 輝海 (70)	平成25年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	兼任	講師	小林 記之 (36)	平成25年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	教育効果を考慮して、小林兼任講師へ変更(25)
兼任	講師	八木 三生 (64)	平成25年4月	陶芸論 陶芸演習						
兼任	講師	藤埴 規明 (69)	平成25年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B	兼任	講師	伊藤 幹 (30)	平成26年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B	教育効果を考慮して、兼任講師に担当変更(26) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	市野 聖治 (67)	平成26年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B						
兼任	講師	石川 純子 (60)	平成26年4月	実用英語演習1 実用英語演習2	兼任	講師	伊藤 泰子 (58)	平成26年4月	実用英語演習1 実用英語演習2	担当者の変更(26)
兼任	講師	加藤 治子 (44)	平成26年4月	TOEIC英語演習1 TOEIC英語演習2						
兼任	講師	保坂 和宣 (62)	平成26年4月	ドイツ語1 ドイツ語2						
兼任	講師	坂本 久生 (63)	平成26年4月	フランス語1 フランス語2	兼任	講師	下村 武 (38)	平成26年4月	フランス語1 フランス語2	担当者の変更(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	重松 由美 (45)	平成26年4月	スペイン語1 スペイン語2						
兼任	講師	陳 秦銀 (50)	平成26年4月	中国語1 中国語2	兼任	講師	陳 秦銀 (51) 寺西 光輝 (38)	平成27年4月	中国語1 中国語2	担当者の変更(26) 教学上の理由により、左記科目の担当 者の変更(27)
兼任	講師	陳 雷 (41)	平成26年4月	中国語1 中国語2	兼任	講師	陳 雷 (41)	平成26年4月	中国語1 中国語2	履修人数に応じて担当を外れたが、寺 西光輝兼任講師が担当するため教育 上支障はない(26)
兼任	講師	梁 音 (45)	平成26年4月	中国語1 中国語2	兼任	講師	梁 音 (45)	平成26年4月	中国語1 中国語2	履修人数に応じて担当を外れたが、寺 西光輝兼任講師が担当するため教育 上支障はない(26)
兼任	講師	趙 賢美 (40)	平成26年4月	韓国語1 韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子 (33)	平成25年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	右高 和生 (66)	平成25年4月	教職論	兼任	講師	右高 和生 (66)	平成25年4月	教職論	担当科目が外れたが、矢澤雅教授(兼 担)が担当するため教育上支障はない (26)
兼任	講師	立川 義政 (70)	平成26年4月	生徒・進路指導論	兼任	講師	永田 国豊 (63)	平成26年4月	生徒・進路指導論	担当者の変更(26)
兼任	講師	宮木 康博 (38)	平成25年4月	導入刑事法※ 刑事政策	兼任	講師	宮木 康博 (38)	平成25年4月	導入刑事法※ 刑事政策	本務の都合により、刑事政策は大野講 師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	皆川 治廣 (59)	平成27年4月	行政救済法1 行政救済法2 地方自治法 情報法						
兼任	講師	加藤 義幸 (70)	平成28年4月	租税法						
兼任	講師	松川 正毅 (61)	平成26年4月	親族法 相続法						
兼任	講師	高木 敬一 (62)	平成27年4月	倒産法						
兼任	講師	広瀬 裕樹 (43)	平成27年4月	保険法						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	愛知 正博 (62)	平成27年4月	刑事訴訟法1 刑事訴訟法2						
兼任	講師	靱山 錚吾 (71)	平成27年4月	労働法	兼任	講師	山崎 文夫 (66)	平成27年4月	労働法	自己都合により就任辞退のため、担当者を変更(27)
兼任	講師	服部 育生 (60)	平成27年4月	経済法						
兼任	講師	阿部 泰隆 (73)	平成27年4月	環境法	兼任	講師	池内 博一 (42)	平成27年4月	環境法	学内調整の結果、就任見合わせとなり、担当者を変更(27)
兼任	講師	今井 潔 (77)	平成27年4月	消費者法						
兼任	講師	大久保 泰甫 (76)	平成26年4月	法史学	兼任	講師	石井 三記 (59)	平成26年4月	法史学	大久保兼任講師が健康上の理由により就任を辞退したため、担当者を変更(26)
兼任	講師	岡寄 修 (64)	平成26年4月	法社会学						
兼任	講師	森際 康友 (64)	平成27年4月	法哲学						
兼任	講師	松浦 以津子 (66)	平成27年4月	外国法						
兼任	講師	市島 宗典 (38)	平成26年4月	政治学						
					兼任	講師	玉川 貴子 (42)	平成25年4月	死生学 ボランティア演習	教育効果を考慮して、担当教員を追加(25) 教学上の理由により、死生学は5名のオムニバスから村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮して、担当教員を追加(26)
					兼任	講師	亀井 美穂 (32)	平成25年4月	死生学 生命倫理	教育効果を考慮して、担当教員を追加(25) 教学上の理由により、死生学は5名のオムニバスから村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮して、担当教員を追加(26)
					兼任	講師	玉木 満 (42)	平成25年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮して、担当教員を追加(25)
					兼任	講師	中原 聖乃 (47)	平成25年4月	国際社会問題	教育効果を考慮して、担当教員を追加(25)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	米川 直樹 (64)	平成25年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮して、担当教員を追加 (25) 教育効果を考慮して、当該科目の担当 教員として追加(27) 教育効果を考慮して、担当教員を追加 (26)
					兼任	講師	岡田 佐由 里 (51)	平成25年4月	基礎英語1 基礎英語2	教育効果を考慮して、担当教員を追加 (25)
					兼任	講師	中山 麻美 (37)	平成25年4月	英会話1 英会話2	教育効果を考慮して、担当教員を追加 (25)
					兼任	教授	井澤 知旦 (61)	平成26年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴 う科目の追加(26) 教学上の理由により、減災福祉まちづ くり学・同演習は越智講師(兼任)、上 級まちづくり演習は田中講師(兼任)・ 越智講師(兼任)に変更(27)
					兼任	准教授	濱 満久 (37)	平成26年4月	地域商業まちづくり学	「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴 う科目の追加(26)
					兼任	講師	田中 智麻 (40)	平成26年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習	「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴 う科目の追加(26)
					兼任	講師	安藤 りか (49)	平成26年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	教育効果を考慮して、担当教員を追加 (26) 教学上の理由により、十名教授(兼任) の代わりに左記科目を担当(27)
					兼任	講師	山下 匡将 (31)	平成26年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮して、担当教員を追加 (26)
					兼任	講師	石田 聖実 (59)	平成26年4月	キリスト教人間学 キリスト教倫理	葛井義憲教授、大宮有博准教授(兼 担)の代わりに科目を担当(26)
					兼任	講師	丹山 美香 (49)	平成26年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教学上の理由により、伊藤講師(兼任) の代わりに科目を担当(27) 教育効果を考慮して、担当教員を追加 (26)
					兼任	講師	伊藤 利行 (63)	平成26年4月	キリスト教と文化 聖書と人間	大宮有博准教授(兼任)の代わりに科 目を担当(26) 教学上の理由により、大宮准教授(兼 担)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
					兼任 兼任	講師	黒柳 志仁 (36)	平成26年4月	宗教と人間 比較宗教学	寺尾寿芳兼任講師の代わりに科目を 担当(26) 兼任講師から兼任講師に変更。教学 上の理由により、村山講師(兼任)に担 当変更。(27)
					兼任	講師	池住 義憲 (69)	平成26年4月	人権と社会	大宮有博准教授(兼任)、人見泰弘講 師(兼任)の代わりに科目を担当(26) 教学上の理由により、神田講師(兼任) に担当変更(27)
					兼任	教授	早川 洋行 (54)	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教 員として追加(27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	教授	伊 沢 俊 泰 (55)	平成27年4月	企業と社会	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津 田 誠 (64)	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	中 島 誠 (34)	平成27年4月	心理学概論	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	菅 原 晃 樹 (34)	平成27年4月	経済学	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)の代わりに科目を担当(27)
					兼任	講師	野 尻 洋 平 (35)	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	越 智 祐 子 (42)	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)の代わりに科目を担当(27)
					兼任	講師	濱 野 寛 子 (34)	平成27年4月	日本語表現 日本語表現上級	玉田講師(兼任)退職の後任として科目を担当(27)
					兼任	講師	村 山 由 美 (38)	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、死生学を5名のオムニバスから単独担当に変更するとともに、黒柳講師(兼任)の代わりに宗教と人間・比較宗教学を担当(27)
					兼任	講師	長 昌 史 (42)	平成27年4月	化学	梅本講師(兼任)の代わりに科目を担当(27)
					兼任	講師	大 野 正 博 (45)	平成27年4月	刑事政策	宮木講師(兼任)の代わりに科目を担当(27)
					兼任	講師	日 沖 直 子 (50)	平成27年4月	キリスト教と文化 聖書と人間	教学上の理由により、伊藤講師(兼任)の代わりに科目を担当(27)
					兼任	講師	神 田 浩 史 (54)	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、池住講師(兼任)の代わりに科目を担当(27)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈○○学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「○年○月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
10	1	2	3	16	11 10	1	5 3 2	0 2 3	17 16	70	2	70	2
(10)	(1)	(1)	(3)	(15)	[1] [0]	[0]	[3] [1] [0]	[Δ3] [Δ1] [Δ1]	[1] [0]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「―」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
			該当なし。

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
設 置 時 (24年11月)	3つの履修モデルの特色や養成する人材像に応じて培う能力には違いがあることから、教育課程における、必修・選択必修・選択の区分を適切に見直すこと。 教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、完成年度までに今後の採用計画など、教員組織編成の将来構想を分野バランスも考慮しつつ策定し、確実に実行すること。	履修モデルの養成する人材像を考慮し、各モデルに推奨科目を設定するとともに、履修登録システムを通して必須で履修させることとした。各履修モデルの推奨科目は下記のとおりである。(25) [公共公益モデル] 憲法2a(総論・統治機構)、 憲法2b(総論・統治機構)、 行政法総論2 [企業法務モデル] 債権法各論1、 債権法各論2、 会社法2 [市民・法社会モデル] 行政法総論2、 行政学 前年度報告内容に基づき、履行している。(26) 前年度と同様に履行している。(27) 完成年度以後、退職者の補充のため、平成29年度に教授2名(50代)及び講師1名(20～30代)を、平成30年度には教授1名(50代)、准教授1名(40代)及び講師1名(20～30代)を採用する予定である。完成年度以後、教養科目担当者の配置変更により、法学を専門とする専任教員については1～2名の増加を予定している。分野別の教員数、年齢構成については、今後できるだけ早急に検討を進める。さらに、退職に伴い教員の質に変化が生じないよう、FD活動を通して中堅層までの教員の資質向上に努めていく。(25) 完成年度以後2年間に補充する予定の教員職員及び年齢構成は、25年度に報告したとおりである。退職者の補充に係る選考が完成年度(28年度)から実施されることを見据え、今年度から、補充する分野の教員数及び年齢構成について具体的な検討を開始する。さらに、退職に伴う教員の質低下が生じないよう、中堅層までの教員の資質向上に引き続き努めていく。(26) 平成26年度、法学部内に将来構想委員会が設置され、大学院修士課程設定を踏まえた完成時以後の教員補充について検討を開始した。これを踏まえ、平成27年4月、理事会の下に大学院法学研究科設置検討委員会を設置し、大学院設置及び教員補充に関して今年度中に方向性を固める予定で検討を進めている。退職に伴う教員の質低下が生じないよう、中堅層までの教員の資質向上に引き続き努めていく。(27)	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

＜法学部 法学科＞

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
(講義内容) 人間が生きている以上、死は確実にやってくる。そこで、講義においては、1) 死の意味するものを考える(死から生へ)、2) ホスピスでの患者さんの死に対する考えから学ぶ、3) 安楽死と尊厳死の問題、4) 高齢化と死の問題、5) 臓器移植と脳死の問題、5) 代表的な宗教(仏教とキリスト教)における死生観の比較等のテーマに沿いながら学び、死に対しての準備をする中で生きることにつながる授業を行なう。	・講義内容の変更 NGU教養スタンダード-社会的教養-人間理解 群内の「死生学」 (講義内容) そもそも死生学(thanatology)は、死の準備教育(death education)および悲嘆教育(grief education)などのいのちの終わりを考察する学として始められた。今では生殖補助医療や出生前診断、遺伝子操作などのいのちの始まりの問題をも含む「いのちの誕生と死にかかわりあるテーマに対して学際的に取り組む学問」＝「死と生の学問」(Life and Death studies)にまで発展した。確かに、死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題を扱う「ホットな」科目であると言える。本講義では、この「死生学」という学際科目を、専門領域の異なる教員によるリレー講義形式で行う。 教育効果を考慮して、担当者を変更(兼任から兼任)。また、講義形式をリレー講義に変更し、多角的な側面より講義を行う。(25) 教学上の理由により、講義形式を5名のリレー講義から兼任教員1名の講義に変更した。講義内容については、「戦争」がもたらす生と死を直視して、授業で紹介する「死」と「生」の状況について、自分の「死生観」とそこから導き出される見解を理論的に論じることが出来ることに焦点化した。(27) 「死」をどうとらえるかは人類の最大のテーマのひとつでありつづけている。「死」はすべての人間に体験されるからこそ、その意味と死を超えた世界への想像力をかき立てた。個人が「死」についてどう考えるか、社会や国家が「死」をどのように解釈するか、時代や状況によって、一つの「死」についてもさまざまな解釈がせめぎあう。この授業では、「戦争」「内戦」という特殊な、しかし、常に起こりうる状況下で、個人が、そして社会や国家がどのように「死」を理解し、その解釈の差によって生じる問題について考えたい。
	・「地(知)の拠点整備事業」の採択に伴うNGU教養スタンダード科目の追加(26) 地域商業まちづくり学 (講義内容) (26) 本講義は、商店街とそれに関連する地域コミュニティを対象として、講義形式で商店街の歴史や施策、現況やそれを取り巻く環境を概説し、商店街活性化の方向性や社会的意義の基本的理解を得ることを目的とする。特に、コミュニティビジネスやまちづくり施策との関連性を中心にその成功事例を取り上げて、商店街活性化に必要な資源や施策について考察する。 歴史観光まちづくり学 (講義内容) (26) 本講義は、観光地あるいは(歴史的)観光資源を有する地域におけるまちづくりを対象として、講義形式で観光の社会的意義や観光の歴史、国内外の観光の実態等の基礎を学ぶとともに、とりわけ地域の歴史を通じて、観光資源の評価と抽出、また観光政策のあり方についての基本的理解を得ることを目的とする。特に、地域の歴史的資源をいかに観光まちづくりとして再構築していくか、また観光資源をどのように評価等していくか等について考察していく。 減災福祉まちづくり学 (講義内容) (26) 本講義は、今後発生が予想される南海トラフ地震や大型台風・集中豪雨に対する減災まちづくり、および日常的取組みとしての福祉まちづくりを対象として、講義形式でこれまでの災害史と復興支援対策、コミュニティとレジリエンス、情報伝達、現状の防災対策等の実態の基礎を学ぶとともに、「減災まちづくり情報システム」を活用した減災福祉まちづくりへの取り組み方法を学ぶ。特に災害の影響は社会的弱者に大きいこと、福祉の視点をとりいれたまちづくりを学んでいく。 地域商業まちづくり演習 (講義内容) (26) 授業は演習形式を基本とする。地域商業まちづくり学で培った知識を基礎として、受講者自らが商店街や地域コミュニティに関連する課題を調べ、内容を検討し、教員と受講者との質疑応答、受講者同士の討論および現地調査などを行い、課題解決策について検討する。 歴史観光まちづくり演習 (講義内容) (26) 授業は演習形式を基本とする。歴史観光まちづくり論で培った知識を基礎として、受講者自らが観光でにぎわっている地域や(歴史的)観光資源が蓄積している地域について、現状および将来展開していくうえでの地域実態や課題の整理、その課題解決策を提示するために、教員と受講者との質疑応答、受講者同士の討論および現地調査などを行い、まちづくり提言について検討する。特に本学が立地する名古屋市および瀬戸市を中心に演習フィールドとしていく。

	減災福祉まちづくり演習（講義内容）（26） 授業は演習形式を基本とする。減災福祉まちづくり論で培った知識を基礎として、受講者自らが減災に関心の高い地域に入っていく、地域住民との情報交換や交流を通じて、地域実態や住民意識、地域対応能力等について把握し、そこでの減災福祉上の課題の整理、その課題解決策を提示するために、教員と受講者との質疑応答、受講者同士の討論および地域に入っていくの現地調査などを行い、まちづくり提言について検討する。特に本学が立地する名古屋市南部エリアを中心に演習フィールドとしていく。 上級まちづくり演習（講義内容）（26） 授業は演習形式を基本に行う。3つのまちづくり演習のうちどれかひとつを履修したものだけが受講できる。これまでに学修してきたまちづくりに関する知識・論点の中から自ら課題テーマを設定したうえで、これに対する教員や受講者との質疑応答・討論や現地調査を通じて、具体的な課題解決プランを作成し、関係者の協力のもとで実際の活動を行い、その成果と課題についてレポートする。
--	--

- （注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

別添「FD委員会規程」に基づき、2014年度に引き続き、法学部FD委員会を開催予定。
委員会の構成は学部長を委員長とし、4名の専任教員（教務委員と同一）により構成する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

2014年度は6回の法学部FD委員会を開催した。
2015年度も法学部教務委員会終了後に、年10回の法学部FD委員会を開催する。

c 委員会の審議事項等

下記の事案について委員会に付議し、活動を開始する予定である。
・ 2014年度の活動報告、2015年度の活動に関すること

② 実施状況

a 実施内容

- ① オフィス・アワーを設ける。
- ② 授業評価アンケートを実施する。
- ③ 教員相互の授業参観を実施する。
- ④ 教員の授業の映像化を実施する。
- ⑤ 教職協働による学生フォロー体制を構築する。
- ⑥ 学生・教員双方の資質向上のため、2つの学生の研究会の実施運営について教員が指導・サポートする体制を構築する。

b 実施方法

- ① 全教員がオフィス・アワーを設け、学生の正課、課外活動の両面のサポートを行う。
- ② 授業評価アンケートを春学期、秋学期にそれぞれ実施し、教員、学生へフィードバックする体制を構築する。
- ③ 教員相互の授業参観では、学内イントラネットで教員に告知する。
参観した教員がアンケートに記入し、教育学習センターにて集計、それを教員間で共有をする。
- ④ 教員の授業の映像化に当たっては、複数の教員の授業において教室の後部にカメラを固定して90分間の授業全部を映像化し、教授会において再生して教員全員で授業方法について意見交換をする。
- ⑤ クラスアドバイザー制度（学生一人ひとりに教員がつき、学業面や生活面に対して助言する）、学生相談室、学生支援センターを設け、学生の正課、課外活動を多角的な面からフォローする体制を確立する。
- ⑥ 法律および地域貢献活動を主とした2つの学生の研究会の実施運営について、教員が学生を指導しサポートする体制を構築する。定期的に教員による研究会運営委員会を開催し、研究会のよりよい運営に向けた検討に取り組む。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

2014年度については法学部専任教員全員が全ての取り組みを実施した。2015年度も同様の予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員相互による授業参観、映像化した授業についての意見交換や授業評価アンケートに関する情報を全教員で共有し、適宜授業改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

2015年度は6月～7月、12月～1月に実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、当該部署（教育学習センター・瀬戸キャンパス総合事務部）にて閲覧することが出来る。
教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成25年度の第1回入学生は、1年次および2年次を通じて「NGU教養スタンダード科目」の教養教育科目を履修し、建学の精神に基づいて、豊かな人間性と教養を身に付けた。そして、専門科目については、1年次に「法学入門」ほか5科目の導入専門科目を履修したうえで、2年次に、公法科目として「憲法1b」ほか2科目を、民事法科目として「民法総則」ほか5科目を、商事法科目として「商法総論」を、刑事法科目として「刑法総論」「刑法各論」を、国際関係法科目として「国際法」を、基礎法科目として「法史学」ほか1科目を、政治学科目として「政治学」ほか1科目を、学年の初めに実施した履修ガイダンス等において進路希望に応じて提指導され履修モデルに従って選択履修し、専門分野の専門的知識を着実に修得しつつある。同時に、少人数の必修科目である演習(1年次の「導入演習」を経て、2年次の「専門基礎演習」「専門演習」)においてクラスアドバイザー教員の指導を受けつつ専門分野の学修を通じてコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高めている。

平成26年度の第2回入学生は、第1回入学生と同じように、「NGU教養スタンダード科目」および「導入科目」で学修のスタートを切り、入学以来、大学生としての自覚を深めつつあり、かつ、教養、演習ゼミおよび専門科目への関心を高めており、また、演習ゼミの担当教員がクラスアドバイザーとして最善のサポートをしつつ、個々の学生に対する教育に当たっている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

平成27年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検・評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』を刊行し、学内外に配布及びホームページで公表する。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価ならびに認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019(平成31)年3月31日までとする。」との結果を受領している。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ ☒ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(年 月 日)

資 料 目 次

資料1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会規定